

9年間を通して、「たくましい北方の子」を育む北方学園構想

北方町教育委員会

1 はじめに

北方町には、町内唯一の中学校である北方中学校区に3つの小学校が設置されている。北方小から昭和59年に北方西小が、平成13年に北方南小が分離し、それぞれ最大517人、595人、556人の学校規模であった。その後の少子高齢化の進展に伴い、現在では、512人、188人、358人の学校規模となっている。

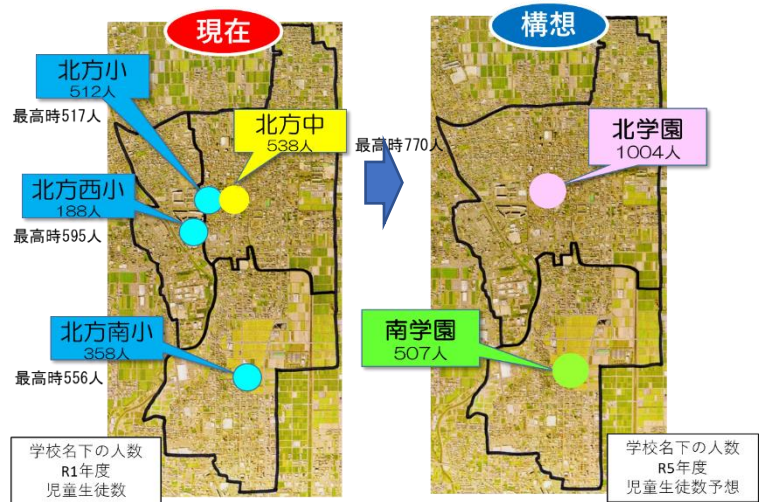
また、本町においても、いじめ、不登校等の発生数が中学校入学以降に急増する傾向がみられ、少人数教育の充実や支援員の配置など対策を講じてきた。

こうした教育環境の現状と課題に対応するため、北方町では小中一貫の義務教育学校の設立を柱とした「北方学園構想」に取り組んでいる。

2 北方学園構想について

(1) 基本方針

- ・令和5年4月に、北方小、北方西小、北方南小、北方中の4校を、義務教育学校2校（仮称）北学園、南学園に再編する。
- ・校区については、現北方小と北方西小の校区を北学園区、現北方南小区を南学園区とする。
- ・学校の位置は、現北方小と北方中の位置に北学園、現北方南小の位置に南学園を設置する。



(2) 目的

①教育施設運営の効率化

- 4校を2校に
- ・空き教室等の削減
 - ・運営費、修繕費の削減
 - ・給食調理場、こども園の併設
 - ・施設の共用
 - ・少子化への対応

②小中の教員が協働し9年間を見通した質の高い教育の推進

小中一貫校に

【生徒指導体制の強化】

- ・切れ目のない子ども理解
- ・いわゆる中1ギャップの解消
- ・一貫した生活ルール等
- ・異学年活動の充実

【学力の向上】

- ・発達段階に応じた教科担任制の導入
- ・9年間を見通した教育課程
- ・一貫した学び方等
- ・教員の指導力向上

③魅力あるまちづくりと町の教育課題への対応

各地域に義務教育学校を

【魅力あるまちづくり】

- ・地域コミュニティの核
- ・コミュニティスクールの推進
- ・特色ある北方町の教育

教育課題の解決に向けて

【町の教育課題】

- ・北方西小の学年単学級化
- ・南北に長い町域による通学距離の長さ
- ・教職員の人事異動
- ・中学校の活性化

3 現在の取組状況

平成30年4月より1年間をかけて、学識有識者、地域・保護者代表、教職員等による学校構想検討委員会において、学園構想への意見書を作成していただいた。この意見書をもとに、令和元年6月「北方学園構想基本計画」を作成するとともに、8月に開校準備委員会を立ち上げ、下に示した検討課題について、各専門部会において具体的に検討を進めている。

【検討課題】・開校時の中3の環境の変化による進学への影響

- ・9年間同じメンバーで学校生活を送ることによる課題
- ・小学校6年生のリーダーとしての活躍の場
- ・高校進学時の大きな環境変化に対する対応
- ・校名、校歌、校章、制服、鞆、体操服などの制定
- ・9学年がいっしょに生活することによる安全面の確保
- ・運動会、卒業式など、学校行事の持ち方
- ・日々の日課、チャイムの設定
- ・PTA活動、学校運営協議会の仕組み
- ・特に開校前後等の教職員の多忙化の解消
- ・登校時、緊急時、送迎時等の安全な導線の確保 等

4 魅力ある北方学園に向けて

令和5年4月の開校に向けて、現在、仮教室の設置工事、給食調理場、学童保育棟の新築工事が始まっている。こうしたハード面の整備と合わせて、魅力ある北方学園を開校するために、小中一貫教育の強みを生かした特色づくりを推進していきたいと考えている。

(1) ICT教育の充実

- ・1人1台のタブレット
- ・高速・大容量ネットワーク
- ・デジタル教材
- ・ペッパー(プログラミング学習)

(2) 英語教育の充実

- ・英語スピーチコンテスト主催
- ・ALTやEF配置の充実
- ・英語検定の実施
- ・学習者用デジタル教科書
- ・大学等との連携

(3) 特設教科の開設

- ・「北方科」の創設準備
- ・地域教材による教科学習の深化
- ・外部講師による専門性向上
- ・ふるさと学習の充実

5 今後に向けて

平成29年12月に「北方学園構想」を発表してから、これまでに町民対話集会をはじめ、地域住民や保護者への説明会を開催し、理解と協力を求めてきた。現在では、学童保育棟の建築や仮教室の設置工事等が始まり、令和5年4月の開校に向けた動きを身近に感じるようになってきたこともあり、地域住民や保護者の関心も今まで以上に高まってきている。特に、開校時に中学3年生となる現在の小学5年生の保護者を中心に義務教育学校の理念やそのよさについて理解していただけているものの、経験したことのない学校再編への不安は大きなものがあると感じている。

今後は、これまで以上に丁寧な説明を心掛けるとともに、令和5年の開校を待つのではなく、北方学園構想の理念を教育活動の中で具体的に示していくことで、地域、保護者、そして子供たちが夢をもって開校に向かっていけるよう取り組んでいきたい。